

# yellow ribbon dog イエローリボンドッグ

皆さんはイエローリボンドッグ (yellow ribbon dog) をご存じですか？  
その名の通り黄色いリボンをしたわんちゃんです！  
黄色いリボンをリードや首輪につけているわんちゃんを見かけたら、近づかずにそっとしておいてあげてください。  
なぜならこの黄色いリボンには「近づかないで、そっとしておいてね」というメッセージがあるからです。  
どんな子がつけているのか理由は様々ですが、主に次の3つがあります。

## ① 訓練中のわんちゃん

興奮して飛びついてしまうから ... 吠えてしまうから ...  
そんな愛犬のために、一生懸命トレーニングしている飼い主さんがいます。  
そのようなときは、トレーニングの邪魔をしないよう、そっとしておいてあげてくださいね。

## ② 怖がり、噛んでしまうわんちゃん

わんちゃんの中にはお友達のわんちゃんや人が苦手な子もいます。  
お散歩中に急に触られたり、他のわんちゃんが近づいてくると、お散歩が嫌になってしまったり外を歩けなくなってしまうかもしれません...  
怖がりなわんちゃんは、目をじっと見たり正面から近づくと噛んでしまう子もいます。  
噛んだ経験を増やさないことも大事ですし、人を噛んでしまうことで広がる感染症なども存在します。

## ③ 治療中のわんちゃん

体に健康上の問題があったり、手術をしたあとだった場合、  
他のわんちゃんや人に近づいてほしくないときがあります。  
興奮して激しい動きをすると、体調悪化や手術後の傷口に悪影響が出てしまう可能性もあります。

このような理由から、イエローリボンをつけているわんちゃんがいます。  
もしイエローリボンをつけているわんちゃんを見かけたら、飼い主さんとわんちゃんのためにも近づかずにそっとしておいてあげましょうね。  
また、イエローリボンをしていない子であっても、「触っていいか」は必ず飼い主に確認してからにしましょう。  
飼い主さんが「やめてください」「離れてください」と言った時はそれ以上関わらずそっとしておいてあげてくださいね。  
受付にイエローリボンドッグについて詳しく書かれたパンフレットを置いてあります。興味のある方は是非お読みください！



メディカルセンター  
トレーナー  
担当：葛西 実桜

# Matsunabi's ぽきけんしば

発刊責任者 松波 登記臣  
松波動物病院グループ  
名古屋市瑞穂区田辺通  
5-2-11  
発刊日：年3回  
2024年10月 第92号

## 秋の味覚にご注意！

食欲の秋！ということで美味しい食べ物が沢山ありますが、ワンちゃんネコちゃんに与えるのは危険な物もあります。今回はワンちゃんネコちゃんにとって危険な秋の食べ物についてお話させていただきます。

### ぶどう

ぶどうを食べると、腎不全や下痢などを引き起こすおそれがあるため与えてはいけません。干しぶどうやぶどうジュースも同様に食べさせないこと。



### いちじく



いちじくは皮や葉、果肉に中毒性のある成分を含んでいます。食べると口内の炎症や嘔吐を引き起こす原因となるので与えてはいけません。  
また葉や皮に触れるだけでも皮膚炎を起こす場合がありますので、ワンちゃんネコちゃんが触れる場所に置いておかないようにしましょう。

### 銀杏



銀杏は嘔吐や下痢を引き起こします。ひどい場合は呼吸困難を引き起こしたり、最悪の場合死亡してしまうこともあります。  
そして、殻にはアレルギーや皮膚炎の原因になるギンコール酸が含まれています。なので、うっかり踏んづけてしまうと皮膚炎を起こしてしまうこともあるので、銀杏が落ちている場所に散歩に行くのは注意が必要です。



### 里芋



里芋はシュウ酸カルシウムを多く含んでいます。なので、ワンちゃんやネコちゃんが調理前の里芋に触ってしまうと、シュウ酸カルシウムで皮膚炎を起こしてしまったり、誤って飲み込むと胃などの粘膜が炎症を起こしたりする可能性があるため、生の里芋には注意しましょう。  
なおシュウ酸カルシウムは水溶性なので、茹でると茹で汁にかなりの量が溶け出します。結石の原因になるリスクが高いため、茹で汁にも注意が必要です。

### 秋が旬のお魚



秋鮭やさんまにも注意が必要です。これらの魚自体は、良質なたんぱく質や脂肪酸を豊富に摂取できるため、ワンちゃんネコちゃんの健康管理にとっても有益な食材です。また、焼いたときの香りが魅力的で、ついキッチンに寄ってしまうこともあるかもしれません。  
しかし、これらの魚は与え方に注意が必要です。  
まず、鮭やさんまを生で与えることは避けましょう。刺身で食べることもできますが、近年生魚に寄生するアニサキスによるトラブルが問題になっています。食べてしまうと胃の中に寄生して穴を開けるなどして、激しい腹痛を引き起こすのです。  
また、魚の小骨は喉に刺さる可能性が高いので非常に危険です。これらの魚を与えるときは、必ず火を通したあとしっかりとほぐして骨を取り除いたり、骨もホロホロになるまで圧力鍋などで煮込んだりして、危険のない状態で食べられるように工夫しましょう。



これらの食べ物を食べてしまった場合、すぐに動物病院にご相談ください。家で様子見をするのではなく、すぐに連絡をするようにしましょう。  
これら以外にも食べてしまうと危険な食べ物は沢山あるので、少しでも不安に思ったら動物病院に相談するようにしましょう！

## オンライン受付

松波動物病院  
メディカルセンター  
※時間予約はできません



おうちにいながら、  
WEBで簡単  
順番受付

新瀬戸どうぶつ病院



Instagram 松波動物病院  
メディカルセンター  
ケンダーガーデン、トリミング、リハビリの様子をご紹介します。

Instagram 新瀬戸どうぶつ病院  
トリミングに来てくれたお友達や、初めましてのお友達のお写真などを紹介しています！  
[https://www.instagram.com/shinseto\\_ah/](https://www.instagram.com/shinseto_ah/)

松波動物病院メディカルセンター  
〒467-0027  
愛知県名古屋市瑞穂区田辺通5丁目2番11  
TEL 052-833-1111

新瀬戸どうぶつ病院  
〒489-0914  
愛知県瀬戸市孫田町63番地49号  
TEL 0561-89-7400

松波動物病院  
メディカルセンター  
おうちにいながら、  
WEBで簡単  
順番受付  
新瀬戸どうぶつ病院

# 秋から冬に特に注意したい猫の病気2選！



季節の変わり目は環境変化がでやすく、体への負担が増しやすい時期です。日々の健康チェックに加え、ご家庭のケアで予防していきたい病気を選びました。但し、これらの病気は秋冬だけに起こるものではないので、1年を通してケアを習慣化していきましょう。

## 1 毛玉症

### 毛玉症（毛球症）とは？

毛づくろいをしたときに少しずつ飲み込んだ毛が胃で塊になり、胃や腸でさまざまな症状を起こす病気です。



メディカルセンター  
獣医師  
担当：加藤 愛理



#### 原因



秋は夏毛から冬毛へと生え変わる季節（換毛期）です。特に猫ちゃんでは、抜け毛が多くなり、毛づくろいの際、通常時よりも毛を飲み込む量が多くなってしまいます。通常は毛づくろいで飲み込んだ抜け毛は吐き出すか、便中に出るかのどちらかで、被害が起きることは少ないですが、換毛期で飲み込む毛量が多すぎると、胃や腸で毛が絡まりあい、体外へと毛玉を排出できなくなることがあります。体内にとどまった毛玉が大きく硬くなると腸閉塞になってしまったり、胃腸を傷つけてしまったりすることがあります。場合により外科手術をしなければならないことがあります。

#### 症状

頻回な嘔吐、下痢、便秘等が多いです。

#### 予防法

こまめなブラッシングで余分な毛を除去したり、基礎疾患がない子は毛玉用フードやサプリメントを活用したりしてみましょう。



#### 毛玉用フードやサプリメントの一例

当院で取り扱っている商品の詳細は、  
当院通信販売サイトをご覧ください。  
引用：<https://www.matsunami-shop.com/>



## 2 下部尿路疾患

### 下部尿路疾患とは？

猫の尿道や膀胱に関する疾患の総称です。具体的に、猫ちゃんでは「特発性膀胱炎」があり、明らかな原因は不明ですがストレスが主な要因のひとつとされています。猫の尿路内で結晶や結石の形成が伴うこともあります。



メディカルセンター  
愛玩動物看護師  
担当：大石 祐太郎

#### 原因



#### ①運動量の低下（過肥）

寒くなることで運動量が減ることにより、普段あまり動かない猫ちゃんだとさらに体重が増えてしまう可能性があります。過肥も下部尿路疾患の原因のひとつです。

#### ②水分摂取量の減少

気温が低くなることで飲水量が不足する場合があります。そうすると尿量が減って尿が濃くなり、膀胱などの下部尿路に結石が形成されやすくなります。尿道栓子の原因にもなります。また、濃い尿が膀胱内にとどまることで、腎臓や膀胱内の細菌増殖や結石が大きくなったりする等の様々な要因により、腎臓・尿管・膀胱などの臓器に負担をかけてしまいます。

#### ③適切ではないトイレ環境

トイレがある場所が極端に寒かったり、清潔に保たれていなかったりすると排尿を我慢してしまうことがあります。

#### 症状

- ・頻尿や血尿、トイレへ行っても尿が出ない、排尿時に痛みで鳴いてしまう。
- ・病気が進行している場合は嘔吐や食欲低下、口臭などがみられることもあります。



#### 予防法

- ・新鮮な水を用意し、安心できる水飲み場を確保していきましょう。
- ・室温の調整・管理や季節の変わり目に、再度トイレの衛生環境や設置箇所の見直しをしてあげましょう。
- ・健康診断で早期発見できることも多いので、定期的な健康診断をしていきましょう。

